平成19年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 マガレイ

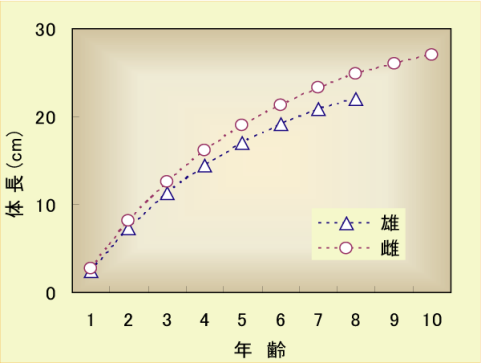
学名　*Pleuronectes herzensteini*

系群名　日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所

生物学的特性

寿命:　雌10歳、雄8歳
成熟開始年齢:　雌3歳、雄2歳
産卵期・産卵場:　新潟県沿岸で2～5月(3～4月が盛期)、産卵場は水深50～90m付近
索餌期・索餌場:　夏～秋季に沖合の陸棚上
食性:　多毛類、二枚貝、小型甲殻類
捕食者:　不明

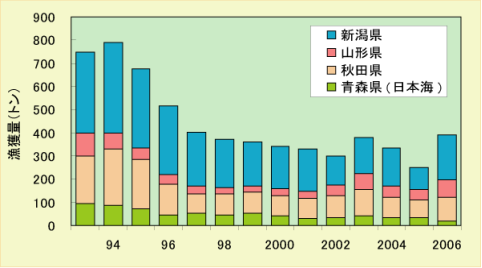


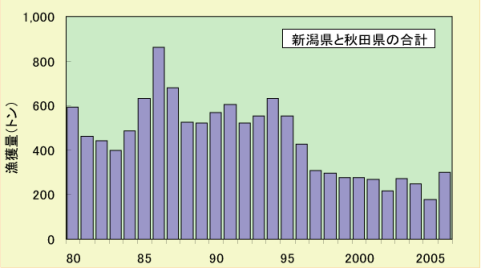
漁業の特徴

日本海北部でマガレイを対象としている主要漁業は、底びき網漁業と刺し網漁業である。その比率は、漁獲量(2005年)でみると底びき網漁業で57%、刺し網漁業で35%と全体の9割以上を占めている。県別には、新潟県と秋田県の漁獲量が多い。

漁獲の動向

1980年以降の資料がある新潟県と秋田県の漁獲量の推移をみると、1986年と1994年に漁獲量のピークが見られ、その後急落した様子が分かる。全域の値でも、1994年のピーク以降減少傾向が続き、2005年には4県で251トンとなった。2006年には漁獲が急増し393トンとなったが、これは漁獲が急落した90年代後半以降では1997年、2003年に相当する量だった。



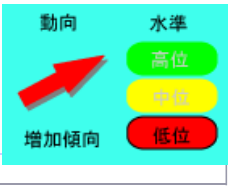


資源評価法

マガレイは農林統計の全国集計対象種ではないので、系群全体の漁獲量を正確に把握する統計データが無い。したがって、日本海北部4県の漁獲量の経年変化を用いて資源の評価を行った。 資源の動向を判断する参考として、沖合底びき網漁業、新潟県の板びき網漁業及び幼稚魚分布調査の結果を用いた。

資源状態

2006年には青森県を除き漁獲量が増加したが、資源状態は1980年以降では低位水準にある。動向は、一部の底びき網漁業においてCPUEがやや高く、新潟県幼稚魚調査でも2007年にはある程度の3歳魚の加入が期待されることから、2006年時点では、マガレイ資源は増加傾向にあったと判断した。しかし、2006年(と2007年に期待される)漁獲量の増加は加入の良かった2003年級(と2004年級)によるもので継続性がないこと、漁獲が急落した90年代後半からは漁獲量とCPUEがはっきりとした増加傾向にあるわけではないことから、増加傾向とは言っても将来的な好転の兆しがあるという意味ではない。



管理方策

2006年時点での資源水準は低位で増加傾向にあると判断された。本種は底びき網や刺し網で主に漁獲されるが、必ずしも主対象の魚種でないことが多い。その実施は困難であるが、漁獲量の上限をある程度おさえることで、特に3歳魚の生き残りを増やし、翌年の漁獲加入年級への負担を減らすとともに、産卵への加入を少しでも増やすことが必要である。また、産卵親魚をより積極的に確保するため、実効ある全長制限を導入することが望ましい。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	260トン	0.8Cave3-yr	－	－
ABCtarget	210トン	0.8・0.8Cave3-yr	－	－

資源評価のまとめ

- 漁獲量等の情報から、資源水準は低位、動向は増加傾向と判断される
- しかし、この傾向は加入の良かった2003年級などによるもので、今後の継続性がない

管理方策のまとめ

- 資源水準の回復と維持のためには、漁獲量の上限をある程度おさえることで、漁獲と産卵に加入する3歳魚の生き残りを増やすことが必要
- 水産庁では2003年7月に「資源回復計画」を作成

資源評価は毎年更新されます。